

# 第134回研究倫理審査委員会 議事要旨

開催日時：令和7年2月13日（木）13:30～14:30

場所：出雲キャンパス大会議室

出席委員：（外部委員）  
☑飯塚 雄一 委員  
☑田中 真美 委員  
☑真玉 保浩 委員  
（内部委員）  
☑橋本 由里 委員長  
☑川瀬 淑子 副委員長  
☑谷村 綾子 委員  
☑中谷 陽子 委員  
☑吉松 恵子 委員

## 1. 議題

(1) 下記申請書1件の審査

No. 429

申請者：林 健司

課題名：中山間地域在住高齢者のヘルスリテラシーを高める介入プログラムの実施と評価

### 結果：【条件付き承認】

以下の点について検討・必要な修正をし、再提出を求めることとした。

(該当箇所順)

No	該当箇所等	指摘項目	指摘内容
1	P2	実行可能性の評価指標	P37 Q5 満足度の指標のみで適切か、他指標の追加も視野に検討すること。
2	P3	コミュニティセンターへの協力依頼	行政組織の仕組み上、管轄の市町村の健康福祉課等にも連絡をすると、センターはより円滑に協力できる可能性がある。センターが協力しやすい環境を整えられるよう、依頼範囲を検討すること。
3	P5	定義	IVの最初の段落、ヘルスリテラシーの定義部分が引用であれば、その情報を追記すること。研究タイトルにある中山間地域の定義追加も検討すること。
4	P6	研究デザイン	混合研究法等、適切な表現を検討すること。
5	P6	対象者の属性-性別	参加者の男女比は経験上女性8割程度が見込まれるとのこと。この研究成果の適用範囲が、一般化できるのか、女性のみなのか、適切な適用範囲について検討すること。
6	P6	対象者の属性-年齢	65歳以上とはいえ、対象者の年齢は幅広い。年齢差を考慮しなくてよいか検討すること。
7	P6	研究成立に必要な対象者の人数確保	2か月の研究期間中のリタイア者も想定されるが、研究の性質上、途中から新たな参加者を募り補完することは難しいため、人数確保について検討すること。あわせてグループワークの振分けについても検討すること。

8	P9/10	誤記	P9 問1の選択肢5、P10 2)
9	P10/31	表記の揺れ	9)、10)の選択肢の表現をP31と統一すること。
10	P13	データの匿名性と特定性	リタイア者データを対象データから除外することは研究の特性上必須ではあるが、一方で、整理番号を用いて匿名性を担保しつつ、その整理番号によりリタイア者を特定する方法は、匿名性を損なうリスクもある。 リスクの少ない適切な方法がないか検討すること。
11	P20/22	ヘルスリテラシーについての説明	一般市民にはなじみが薄い言葉であるなら、参加者向けに適切な説明をつけるなど、理解していただけるように工夫すること。
12	P20/22	対象除外者への対応	P2 計画書にある麻痺や認知症の方を除外することについて、チラシや説明文には記載がない。記載の必要性について検討すること。 また該当の方が会場へいらした際の対応について検討し、ご本人の意欲や、参加者間の関係性に支障の出ないよう、配慮すること。
13	P20/22	運動内容の記載	チラシや説明文からは、対象者に運動をしていただくことへの記述がない。ピラティスやセラバンド等、他用語も高齢者には目新しいので、イラスト等を使い、参加者により伝わるよう工夫すること。
14	P22	個人情報の漏洩	「正当な理由なく」という条件付きの表現は、正確な表現ではあっても対象者は漏洩することへの不安を覚えやすい。より適切な表現を検討すること。
15	P22	対象者の守秘義務	対象者同士は知人の可能性も考えられるため、グループワーク中の内容は対象者内であっても他グループにも口外しない等、グループワーク中に安心して自身のことを語れるよう、守秘義務を課すことを検討すること。
16	P28	収集する個人情報	今回の研究での必要性について改めて検討し、必要性が薄いものは、削除も視野に入れること。特に健康状態は、回答に抵抗感がある方も多いと思われる。

## (2)迅速審査で承認した申請書の報告

事務局より、12月以降迅速審査で承認した申請2件および一括審査による多機関共同研究参加機関のため審査は不要と判断した申請1件について、別添資料のとおり報告があった。

## 2. その他

次月開催の際は、開始時刻を15時からとする旨の確認がなされた。

議事記録者名(事務部管理課：齋藤 伸朗)